

玉樹 だより

社会福祉法人 絢会 

2016年1月 第35号

平成17年
入社式



そして…現在



玉樹創立

10年を迎えて…

普通に暮らす幸せ



初心

特別養護老人ホーム玉樹

施設長 吉川真弓

「世間の常識は施設の非常識」これは、施設開設準備段階で、耳にした言葉です。その後、実際に介護施設にて目にした光景は、ご飯を食べるため、トイレに行くため、お風呂に入るため、長い時間並んでいるお年寄りの様子。私にとって、非常に衝撃的だったのを今でも鮮明に記憶しています。当時は、施設では、それが当たり前の状況だったのでしよう。全国的に「ユニットケア」という方法論を取り入れ、「今」を変えていかなければならないと、制度も動き始めた矢先に、私たちは、特別養護老人ホーム玉樹のスタートをきりました。そこで、理念として生まれた言葉が「普通に暮らす幸せ」だったのです。

殆どのお年寄りは、病気や障害を抱え、沢山の事を諦め、玉樹に入居となります。その閉ざされた心に寄り添い、心を動かし、徐々に自信を取り戻していただけるよう、日々関わっていきました。そして、『暮らし』を創り、一緒に小さな《幸せ》を重ねていきました。この十年で、特養で百六十二名のお年寄りとの出逢いと別れを重ね、私たちは、お年寄りに育ててもらいました。

初心を大切に、これからも歩み続けていきたいと思います。

十年を振り返って

介護主任 高橋奈美子

私は介護の仕事に就き二十年経ちます。十年前、玉樹がユニットケアをする施設だと聞き、どうしても働きたいと思い、玉樹の一員となりました。

創立当初は、目の前のお年寄りの対応に精一杯で、仲間がどんどん辞めていく時期もありました。でも、目の前にいるお年寄りを守らなければいけない…、とにかく前に進むしかない…と、辞めていく仲間を引き留める事も出来ず、辛い時期もありました。

玉樹で働かせていただいた十年間は沢山の学びもありました。お年寄りの生活を支える為には、「想い」だけでなく、介護のプロとして、生活を支える為の武器となる『技術』をしっかりもたなければいけないという事を、日々感じています。また、『関わり』がとても大切です。お年寄りの気持ちに添う努力をして、真剣に向き合いながら関わらせていただくことです。

高齢者の方は、歳をとるごとに全身の機能は落ちていきます。でも、介護者の『技術』と『関わり方』次第で、機能が落ちるスピードを

遅くしたり、逆に元気になったり、出来なかったことが出来るようになったりします。

入居時は喋ることも、口から食事を食べることも難しく、経管栄養だった方が、大好きなあんこから食べる取組みを始め、一ヶ月半ほどで、口から食べることができるようになりました。そして、短い単語ですが言葉がでるようになり、感情も表現して下さるようになった例も実際にありました。

玉樹の一員となつてからの十年、沢山のお年寄りとの出会いがありました。また、お年寄りと一緒にやりたい事を自由にやらせて頂くこともでき、関わりでよい変化が生まれる事も実感してきました。今はその小さな積み重ねが自信に繋がっています。

これからも、人生の最期となる瞬間を…「玉樹で過ごせてよかった…」と想っていただけよう、お年寄りの生活を支えていきたいと思っています。



平成 17 年創立当初



そして…現在

～創立 10 周年記念式典&運動会～



両親との十年間



30 年程前、
笠間の菊祭りにて

玉樹様、創立十周年おめでとうございます。
そして本当にありがとうございます。

私の両親はこの十年間に、二人共にこちらでお世話になり、最後の時もこちらで迎えました。父は創立当初から六年間、特別養護老人ホームのさくら荘に入居し、母は三年前からデイサービスじゅげむ、ショートステイ玉樹に通所、そして昨年十二月、最後の二週間を父と同じ特別養護老人ホームのさくら荘に入居し、十二月二十二日に他界いたしました。この長い介護の十年間、まだ「看取り」という言葉も耳慣れず、「終活」なども最近のこと。十年前は、老人ホームに入居する事にも抵抗を感じる時代でした。病弱な両親を抱え苦悩する私たち家族に、しっかりと寄り添い、支え続けてくださった施設とスタッフの皆様には、今は、ただただ感謝の気持ちで一杯です。
「看取りをどこですべきか」に関しては一番悩みました。親との別れ：出来れば家族が生活や心のゆとりを持って、悔いなく看取りたい。

また、本人にとっても終始温かい見守りの中で最後を迎えて欲しい。このような家族の気持ちを十分に汲み取って下さり、毎週話し合いの場を設けて下さいました。この父の時の経験と経緯から、母の時は迷いなく入居の決断をしました。

母は、余命を宣告されてしまっただけからの入居となり、入居から最後の時まで、わずか二週間でした。その短い日々の中で、親族と面会し、自宅にも帰り、本当に充実した和らぎの時でした。八十六歳の母の顔は最後までやつれることも無く、皆様の愛情込めた献身的な介護のお陰と身にしみて感じています。想い出の写真も沢山頂きました。今は安堵感あるのみです。

今後は玉樹様の更なる発展をお祈りし、稀にみるスタッフの皆様の結束力とチームワークで、様々なご家族様にお力添えをお願いしたく、同時に心からの感謝とお礼を申し上げます。長きに渡り沢山のお心遣い、本当にありがとうございます。

樫村 和子

平成 17 年
入居当初

平成 18 年
日常

平成 19 年
家族会

平成 20 年
ドライブ

平成 21 年
外食

平成 22 年
納涼祭

平成 23 年 1 月
自宅にて日本酒を...

平成 25 年
在宅日帰り
温泉ツアー

平成 26 年
デイサービス

平成 27 年 12 月
ご自宅にて



「社会福祉法人 紬会」設立から11年経ち、
特別養護老人ホーム玉樹 創立10周年に
合わせてロゴを作りました。

社会福祉法人 紬会

紬会

つむぎかい



2016 年を迎える準備の様です。
年末恒例、餅つき・門松作りをしました。
冬休み中のたまきっず（法人職員の子供達）の
参加も恒例となり、お年寄りも、子供の「よい
しょ〜！」という元気な掛け声に笑顔。イキイ
キとした姿が見られました。また、ある利用者
様が、年賀状を仕上げて、「あ〜良かった！毎
年やることが出来て安心した」と仰っており、
その方それぞれに、恒例行事や毎年行っている
ことへの想いも感じられました。
「また、来年も一緒に楽しみましょう！」



本年も利用者様、家族様が安心して過ごせるよう
努めてまいりますので、何卒よろしくお願い致します。



お泊まり旅

一緒に見た海、

過ごした時間…

それは、

それぞれの

大切な想いに

気づく

旅になりました

ディサービス玉樹
ディサービスじゅげむ
シヨートステイ玉樹

千葉県勝浦へ ～海満喫の旅～

車中はゲームで
盛り上がり♪



昼食にて♪



房総半島の最南端
野島崎に立つ灯台散策



温泉で温まり
ゆつくりと…



宴会♪
かんばしい！



平成27年11月29～30日、

今回で2回目となる在宅お泊まりツアーを開催しました。家族様6名、利用者様8名参加されました。元々は、旅行に連れて行ってあげたいけれど家族だけでは不安…という声から始まった企画です。

行ったことがない場所に行き、普段味わえない非日常を感じていただくことも旅行の醍醐味ですが、旅の目的には、他にも利用者様、家族様の大切な想いがありました。私たち職員にも大切な気づきがあった旅のお話をご紹介します。

「おみやげに 込められた想い…」

相談員 上村大志

「一人でできていたことも、誰かの手を借りなければいけない…いつも世話になってばかりで…」と、日々どうにもならない想いを抱えていた利用者様。

でも、旅行に出掛かられたことで「子供や孫におみやげを買ってあげられる。いつも、してもらえばかりの自分が、誰かに何かをしてあげられたと思える機会をもてた…、それが嬉しい…」そんな、おみやげ一つに込められた想いを知ることができた旅でもありました。

「楽しい思い出」

家族様より

母が病気になって初めての泊旅行で、不安な想いと共に参加させて頂きました。しかし、職員の皆様のご配慮のおかげで、母も私たちも安心して旅行に行けたのか忘れてしまっているかもしれませんが、楽しかった想いは「心の中」に残っていると思います。また、今回の旅行で職員の皆様を身近に感じられ、家族的な旅行ができたと思います。これに、職員の皆様と気軽に話ができる機会が増えたら…と思います。

ご同行頂いた皆様、楽しい思い出作りをありがとうございました。

宴会♪

カラオケ！

噴水
イルミネーション

ホテルからも
海を一望♪

お茶目に
記念撮影♪

360度海を見渡せる
パーキングエリア「海ほたる」

大好物のお寿司を満喫♪



寄り添うサポート

相談員 谷目智代

私が関わらせて頂いた方は、初めての一泊旅行となつた今回のツアーに、家族様と一緒に参加されました。そして私自身も初めて一泊ツアーの担当「」…。

その方は環境の変化に不安がありました。外出するといふ楽しみも感じていただければ…という想いから、平成27年4月より、毎月外出ができるよう取り組みを始めました。本人様と相談しながら、まずは、施設内イベントへの参加や、近い場所から外出のお誘をしていきました。そして、段々と遠いところへも外出が出来るようになり、今回のツアー参加に繋がりました。

しかし、今回は初めての一泊旅行。外出することに慣れてきたとはいえ、前日まで参加する事に迷いがあつたので、本人様の気持ちに寄り添いながら声掛けをしていき、当日を迎えることができました。

旅先でも本人様の不安な気持ちを少しでも軽減できるように、「自分がしっかりサポートしないと…。家族様に負担をかけてはいけません。」と、私は強い想いを抱いていました。

しかし、一日目の昼食時、食事を食べやすく一口大に切るため、私が隣に座ろうとした時、家族様より「大丈夫ですよ。こんな時ぐらいしか出来ないの…」と声を掛けて頂きました。

その時、私は自分の想いばかりを押しつけてしまい、家族様の想いに寄り添っていない事に気付きました。家族様にとっては、初めての親子一泊旅行…親子で寄り添う時間は、とても大切な時間でした。

その後は、家族様に声をかけながら、ホテルで過ごす時間や食事を楽しむ時間、またお土産を一緒に選ぶ時間など、思い出をたくさん持ち帰って頂けるよう「想いに寄り添うサポート」

を意識しました。

私は一泊ツアーの経験を得て、本人様や家族様の想いに寄り添い、それぞれの想いが「繋がる」ようなサポートが出来た時、一泊ツアーの目的の一つに近づけたように思います。

また、日帰りツアーとは違った感動がありました。日帰りより長い時間一緒に過ごす事で、同じものを見たり…触れあったり…感じたりできる時間がたくさんあり、一緒に想いを「共感」できるという事は素晴らしいと思えました。ぜひ、たくさんの方に参加して頂き、実感して頂けたらと思っています。



家族様と過ごした
大切な時間♪



家族様と私たち職員が

一緒に過ごす時間

相談員 目黒陽子

玉樹の理念は「普通に暮らす幸せ」です。利用者様だけでなく、その利用者様をサポートする家族様も含めて、少しでも「普通に暮らす幸せのお手伝い」ができるようにと関わらせていただいています。利用者様をサポートする家族様は、日々続く忙しい生活の中で、時間の使い方を試行錯誤しながら、さまざまな想い・感情が交差して夜を迎え…朝が来て…の繰り返しですが現実ではないでしょうか？

通所中は、利用者様と職員が一緒に過ごし、想いを共有する時間はたくさんあります。でも、家族様と職員が直接お話しできる時間といえば、現実

送迎時のたった数分程度です。

だからこそ、この一泊旅行で家族様と一緒に過ごす時間は私たちにとても大切な時間でした。

一緒に過ごすことで、私たち職員の事を知っていただく機会にもなりました。また、利用者様と家族様が一緒に過ごしている家族の雰囲気や、普段の様子を知る機会にもなりました。お互いを知ること、今までより家族様との距離が近くなった気がします。

そして、家族様の「心の中の想い」に少しでも触れさせて頂き、悩みや嬉しかった出来事まで共有することで、これからの生活を一緒に考えていければ…と感じることができた時間になりました。

在宅合同クリスマス会

デイサービス 玉樹・デイサービスじゅげむ・ショートステイ 玉樹



ボランティアさんにもお手伝いして頂きました。ご協力ありがとうございました。



新しい仲間が増えました

「一緒に想いを叶えるために頑張ります」

昨年 11 月に入職し、あっという間に3ヶ月が過ぎようとしています。以前は、単独型の事業所で、ひたすらパソコンに向かい、業務に追われる日々。「〇〇さんは、デイサービスに行くことができているかな…、リハビリ大丈夫かなあ…、おしゃべりしているかなあ…」など思っても、なかなか利用者様が通所されている事業所に出向くことは難しく、電話や報告書などでの把握になりがちでした。しかし、施設併設型の玉樹に来て、デイサービスやショートステイに直ぐに様子を見に行け、連携しやすい強みがあると実感しています。まだまだ未熟者ですが、利用者様の暮らしや想いを大切に、支援していきたいと思います。よろしくお願い致します。



美野 絹子



園府田 好美

昨年 10 月に入職してから、あっという間の4ヶ月。担当の利用者様や家族様とも、少しずつ顔馴染みになれてきたかな…と思います。単独型の居宅支援事業所出身の私には、施設併設型の業務は充実の 3 ヶ月。失敗して落ち込むこともしばしば…。そんな時は、愛犬のくるみさんに癒してもらっています。でも、これからが踏ん張りどころです。一人でも多く利用者様の笑顔のために、また家族様が安らげる生活のサポートができることを目標に、努めていきたいと思います。よろしくお願い致します。



平成 26 年 10 月より始めたスタンプラリー。たくさんの利用者様が継続して参加して下さいます。歩く事で筋力維持に繋がり、スタンプを集める楽しみもありますが、**最大の目的は「季節を感じる」こと**。外に出る事で「花の香りを感じる」「風を感じる」「温度を感じる」こんな風に季節を感じて頂けたらと思っています。桜は1週間ほどで散ってしまうように、日々の季節の変化は早いものです。だからこそ、「その瞬間を逃さないよう」外へ出かける機会を作っていこうと思います。

編集後記 玉樹が創立して 10 年。10 年分の想いは、沢山あり過ぎて伝えきれませんが、利用者様、家族様、職員…それぞれの想いが詰まった玉樹だよりとなりました。皆様の 10 年は、どんな日々だったでしょうか…？

◆発行◆

社会福祉法人 絢会

TEL0296-49-3886

FAX0296-49-2987

<http://www.tamaki.or.jp>

